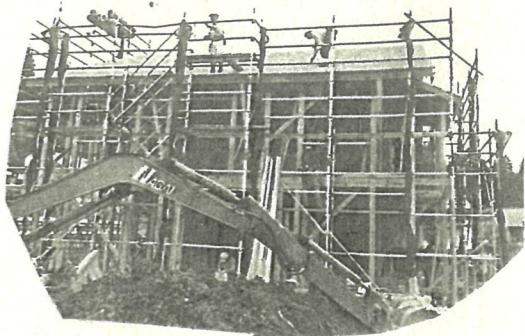


10/15 生紙工房脇のニワトリ、10羽。いつか脱走してそのままにしたら楮畑など周りの草取りをしてくれるのでありがたい。自分が行くと駆け足でやってきて後をトボトボ連なる。ネリこぎの時、ミズが出てくるので競って食べまくるペットたちです

# 高野の生紙

第58号  
2022年10月24日 発行  
越後 門出和紙 小林康生  
〒945-1513 新潟県柏崎市高柳町門出  
☎0257(41)2361 ©0257(41)3024  
e-mail info@kadoidewashi.com  
http://www.kadoidewashi.com  
年4回発行 年会費920円



元、郵便局をしていた矢代家  
旧宅の脇に新たに新築中 10/3

## 葉月

八日、早朝四時に柏崎市内の表具師、平田さんにもお願いして中型ワンボックスと自家用車に小生と抄吾、二台でまっしぐら、日本橋、小津和紙さんを一〇時到着目指して出発した。その内に首都高が途中から一寸釣り動かない。道を間違え、知らぬ間にレインボーブリッジ・・・。一時間遅れで到着した。

この日はひたすら展示会場作り、伝統の紙とメッシュ和紙などの新作、それと様々な和紙の明かり、それから初めて製作した草木染の浸し模様染も加えた。前日の夕方に山から採ってきたクロモジの木をクロモジ染紙で覆った花瓶に入れ、草木染各色、弓なりに曲がったモミジの木に穴をあけ、棒を差しそこに紙を吊るし、天に向かって、らせん状に草木染和紙が高く伸びていくようににした。その周りに紙衣のバッグ、奥に伝統の和紙、和紙の明かりをどうディスプレイしようか、天井に吊るす網がないので代わりに1m×2mの白いメッシュ和紙を3枚、どうにか吊るしその網目に引つ掛け薄い和紙に交じって、折り紙作家の布施知子さんとの合作を展示した。あの時間の中でまずまずの出来栄えに仕上がった。

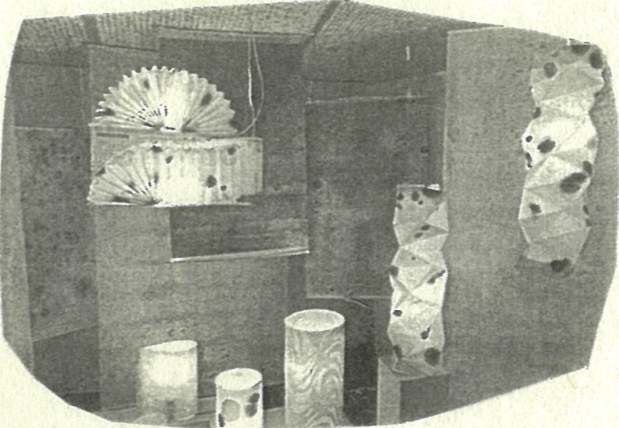
素材を作る職人は、作品に手を出してはならないと親方をしてきた時に決めていたのだが、退いてから様々な表現を試み、初めての草木染模様をパネルにしてみた。生紙を買っていただいてそれを色々に染めて暮らしを彩っていただけるのであればと、その叩き台レベルの作品ではある。

にもかくにも、年々、生紙が一般社会から遠くなっている。何とか身近な暮らしの中に活かさなければ、生紙の真の意味は無くなってしまふ。コロナ禍の中、さすがの東京も人が動かないのかと思っていたら十一日は大勢の方がお見えになり「生紙を語る集い」にも同級生の東京組も駆けつけてくれて嬉しかった。

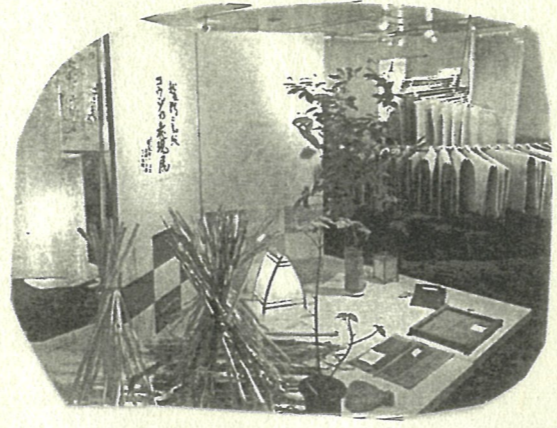
## 長月

三日、全国手漉き和紙用具保存会の方々が四名、門出かやぶきの里にお出でになり、主に県内の紙屋に体験研修とお互いの立場での話し合いが行われた。宮崎謙一さんや前会長の井原さん

はコロナ以後久々にお会いした。日頃、紙屋を下支えして下さっている方々なのでその難儀に感謝するところですが、今一番困っていることは、簀に使用する竹ヒゴを作る人が少なく、仕事ができないという。従ってセットに



8/9 小津ギャラリーにて展示  
メッシュ和紙に吊るされた折り紙の明かり



素材の楮と用具 クロモジの木  
奥に草木染紙を吊るす

なる桁屋さんも・・・。そして、その桁に使用する金具づくりの方もことごとく辞められ、その桁屋さんが金具づくりの試作を始めたという。紙の出口が閉ざされると次から次へと上流に向かって消えていく。日本から日本が少しづつ確実に失われているのは何とも寂しいことだ。

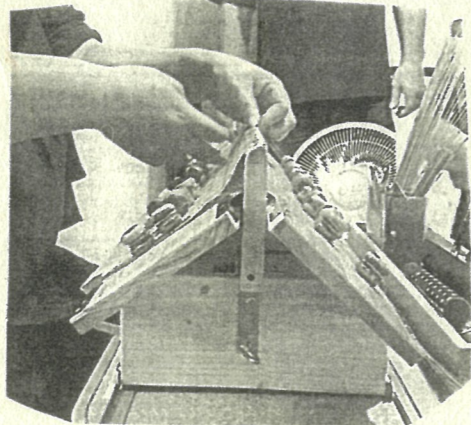
今年の稲刈り、いつも水でぬかるむ田んぼが、今年は珍しく乾いてすこぶる楽そうなのでやたら天気予報が騒いでいる。雨台風の前に刈り取るうと一週間早めて二十四日の土曜日、二男の悠生と嫁さんも駆けつけ、併せて嫁さんのご両親からも手伝ってもらいすこぶるはかどった。翌日は女房と二人で八段の稲架掛けをした。

昨年より壁面が広く少し豊作かと思っただが、早く刈ったせい、いりこ(未熟米)が多く出て、いつもと変わらなかつた。

## 神無月

大雨とコロナに阻まれて、四年ぶりに狐の夜祭りが九日に行われた。前日、狐の踊り会場に山の奥から狐がやってくるストリーパーのため、鉄索(昔柵田の稲束をワイヤーで流すため、車の入る道まで張った)を100メートル程張って和紙の提灯を流す仕掛けを作るのがいつもの自分の役目。四人のスタッフとしっかり準備万端だったが、その時間帯から雨が降り出し、途中から子ども自然王国の屋根付き広場に変更して残念ながらお披露目ができなかった。それでも畳一畳分の大油揚げや山道の狐の行列など一通り催すことが出来て、多くのお客さんにもお出でいただいたので先ずはよしとしなければならぬ。

翌十日、早朝五時、何とも何とも久しぶりに女房と旧婚旅行で和歌山県の高野山に向けて出発した。実は、我が先祖が漉いて来た伊沢紙は伊沢細川とも昭和初期の記録帖に記されていて重要無形文化財。埼玉県の小川和紙の細川紙もルーツは高野山。小さな集落名の細川から来ている我が紙のルーツもそこにあるとつくづく思い知らされたのは、十一年前



9/3 用具保存会の方から漉き  
簀作りの体験研修で教わる

手漉き和紙青年の集いが田辺市の龍神村で開催された折り、初日に飯野さんたちのグループがそこで見せてくれた様子がまったく祖父がやっていた技法と変わらなかつたことだった。大きな特徴であるカヤヒゴの簀、寸法も同じやや溜め漉きの漉き方。もつとも江戸

時代までさかのぼればどこも似ていたのであろうが・・・。

我が家には、古いカヤ簀をばらして父が編み直した簀ダレがいくつかあって、それで伊沢紙、ふわた紙を若干作ることができたのだが、それも使用できなくなつて十年以上が・・・。

いつか、簀作りからやらなければと、密かに願っていた。いつか、飯野さんからその手ほどきを受けたいと思つて、年賀状の中で打診していたのであった。カヤは秋の彼岸が終わったら採取すると言っていたので、再び、十月初旬にお手紙すると十日からどうですかと返信をいただいた。

できれば女房と一緒に出掛けましたが、九十歳になる母が一月十日早朝、玄関で転んで脳震盪を起こし気絶、発見したときは体温が二十五度まで下がつて・・・。それ以来、ほぼ寝たきりになつたので、女房と二人で出かけることが難しくなり、それでも出かけるときは近くに住んでいる弟夫婦にお願ひして面倒を見てくれていたのだが、三泊四日はハードル高かつた。たくましく、おおらかな母がすっかり子供のようになつてしまい、日頃、女房もストレスを抱えていたので、弟夫婦がこんな時だからこそ出かけた方がいいと・・・。その言葉に甘える旅となつた。先ずは、その小さな集落の細川で・・・。そのの廃校になつた旧小学校が紙漉き体験場で・・・。飯野さん夫妻、スタッフ二名の方から色々とお話を伺つた。

宿泊は念願がかない、西室院というお寺さんの宿坊に・・・。その日は広いお寺に我々だけで何とも贅沢な空間。女房はすっかり精進料理に満足そう。翌日、飯野さんがお勤めの教育委員会の和室に簀編みの用具が設置されていて女房と二人で教わる。午後からは奥の院の裏山の斜面がスキー場になつていて、そこが一面の萱原。なるほど我が土地では見たこともない細いカヤが広がっている。そこで本物の鹿を見て思わず女房は「縫いぐるみじゃないよねと」・・・。十二日午後、飯野さんも有給を取られて、一緒に龍神村で紙漉きをされている奥野誠さんを尋ねた。

十一年ぶりに再会、何だか戦友に会った気分。ちょうど十一年前の今頃だったか集いの途中から大雨になって大災害に……。我々全員がすべての道が閉ざされ温泉スタッフも出勤できず、電気も携帯電話もダメ。トイレも限られた場所以外使用できなくなり、龍神温泉に三日間閉じ込められたのだった。



弘法大師さんが即身仏になられた奥の院の裏手。恐れ多いカヤ場は3町歩ほどか

ちようど、その集いは我々の銀婚式の年でもあり、女房、母、母の仲良しの和子さん、工房スタッフ二名の六名で参加した。集い後、高野山の宿坊に泊まる予定だったのが果たせなかったのだ。奥野さんはそんな中、我が家も心配であったはずだが、本当によく駆けずり回り我々の世話をしてくださった。

その時、叶うならいつかこの温泉と宿坊を今一度尋ねてみたいものだと思いつつ続けていたのでもしかも女房と共に分かち合えて心豊かな気分。その折、写真に撮った温泉宿の正面玄関と同じ場所で二人の写真その時を共に経験した支配人さんからシャッターを押してもらった。今冬はぜひ、ありがたい高野山のカヤで簧を完成させ、春には伊沢紙とふわ紙を漉いてみたいものだ。

【あとがき】

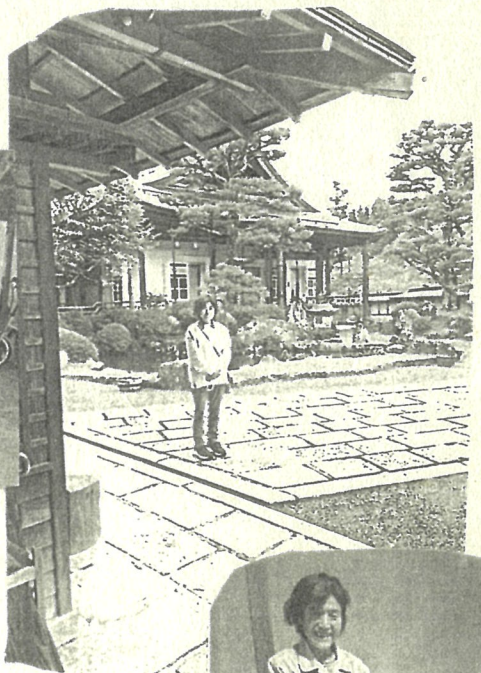
近年の門出、三々四軒は家が取り壊されている中で実に十九年ぶり（生紙工房以来）の矢代耕太さんの家が新築中だ。

門出かやぶきの里の初代組合長でもあった、故矢代保治さんのお孫さんが五年程前、農業をやりたいとやってきて、結婚して赤ちゃんが生まれ、たくましく、やめていく田んぼを守ってくれている。そして東京のご両親も一緒に門出で暮らすそう。

こんなうれしいことがあるだろうか。ここに住み人々はお互い誰一人、必要とされているのだ。この我が郷土高柳はどう進めば未来のこの国の役に立つのだろうか。どう進めたら人は自然の子どもになれるのだろうか。

(康生)

10/13 11年ぶりの龍神温泉  
正面玄関前 同じ場所でツーショット



10/12 龍神和紙の工房内  
奥野誠さん、小生、飯野尚子さん  
手前は風船爆弾に使用された紙



壇上伽藍の前にて



10/11 写真上：宿坊・西室院は水引の金封などに高野紙を使用されています。下：精進料理に満足する紀久子

